Volume 70– 2013 年 4 月

JRRN Newsletter

日本河川・流域再生ネットワーク http://www.a-rr.net/jp/

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)は、河川再生に関わる事例・経験・活動等を共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に 2006 年 11 月に設立されました。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。

目 次 Pages

- JRRN 事務局からのお知らせ …… 1
- 会員寄稿記事 …… 3
- 会議・イベント案内 …… 10
- 書籍等の紹介 …… 10
- 会員募集中 …… 11

JRRN 事務局からのお知らせ(1)

『桜のある水辺風景 2013』写真募集中！（5 月 31 日〆切）

JRRN 会員皆様が 2013 年に撮影された「桜のある水辺写真」を募集中です。沖縄から北海道まで、皆さまの身近にある水辺や旅行などで訪れた水辺の桜の写真を、その写真に寄せる皆さまの思いや桜の物語とともに、是非お送り下さい。

応募頂いた写真は「桜のある水辺風景写真集」として JRRN ウェブサイトで公開させて頂きます。この写真集を通じて、会員の皆さまが水辺の美しさを再発見するとともに、全国各地の水辺再生に向けた会員相互の交流の場が生まれるきっかけとなれば幸いです。

○テーマ： 「桜のある水辺風景 2013」 *※2013 年に撮影された写真に限定させて頂きます*

○応募資格： JRRN 会員 **※非会員の方も、会員登録（無料）の上、ご応募をお待ちしております。**

○作品規定：
- 応募はお一人何点でも可能です。ただし応募作品は自ら撮影したものに限ります。
- 写真サイズはハガキサイズ程度の印刷でも鮮明なレベルとします。
- 個人が特定できる人物画像が含まれる場合は被写体の方の了承を得てください。

○応募方法： 別紙※の「応募シート」に、題名、撮影場所、撮影年月、氏名、住所、電話、Email アドレス、写真利用時の個人情報開示条件、作品への思い等をご記入の上、写真と共に以下応募先へ送付下さい。（デジタル画像の場合は応募シートと共に電子メールにて、オリジナル写真の場合は応募シートを同封し郵送願います）

※別紙応募シート：http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/Photo2013form.doc

○応募期間： **平成 25 年 3 月 1 日（金）～平成 25 年 5 月 31 日（金）**

○応募作品の取扱いについて：
- 応募期間終了後に、JRRN ニュースレターや「応募写真集」上にてご紹介させて頂きます。
- （撮影者に事前にご連絡の上で）JRRN 刊行物やウェブサイト等で無償で使用させて頂きます。
- 応募作品は返却致しませんのでご了承ください。

○応募先：
〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 新川中央ビル 7 階
公益財団法人リバーフロント研究所内 JRRN 事務局 （Email: info@a-rr.net ）

○問合せ： JRRN 事務局 担当： 後藤・和田 （E-mail: info@a-rr.net Tel: 03-6228-3862）

※「桜のある水辺風景 2013」応募要領はコチラ： http://jp.a-rr.net/jp/news/info/264.html

※『桜のある水辺風景 2012』はコチラ（PDF 5.6MB）

http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/files/2012/06/JRRNsakura2012report.pdf

JRRN 事務局からのお知らせ(2)

「マレーシア排水灌漑局(DID Malaysia)」の ARRN 加入報告

2012 年 9 月に開催された「マレーシア河川フォーラム」及び同年 12 月の河川再生視察団の来日支援を通じて JRRN と交流を深めてきました「マレーシア国排水灌漑局（DID Malaysia）」が、2013 年 3 月 19 日（火）にアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の団体会員に加入しました。

マレーシア国排水灌漑局は、マレーシアにおける統合水資源・流域管理、河川の保全・再生、治水、水環境改善、海岸管理などを担う中央政府組織で、1980 年前後より JICA による開発調査や専門家派遣（2005 年まで）を通じて、また、その後も河川に関わる国際行事などを機に日本との活発な交流が行われてきました。

マレーシアでは都市河川再生に向けた様々な取組が始まっており、ARRN 活動を通じて両国間の河川に関わる情報共有を進めながら、河川再生の技術や仕組みづくりの相互の発展に繋がることを期待します。

マレーシア排水灌漑局の河川ポータルサイト（英語）
http://www.water.gov.my/

※「2012.9 マレーシア河川フォーラム報告」はこちら
http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/140

※「2012.12 DID 河川再生視察団支援報告」はこちら
http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/198

（JRRN 事務局・和田彰）

JRRN 事務局からのお知らせ(3)

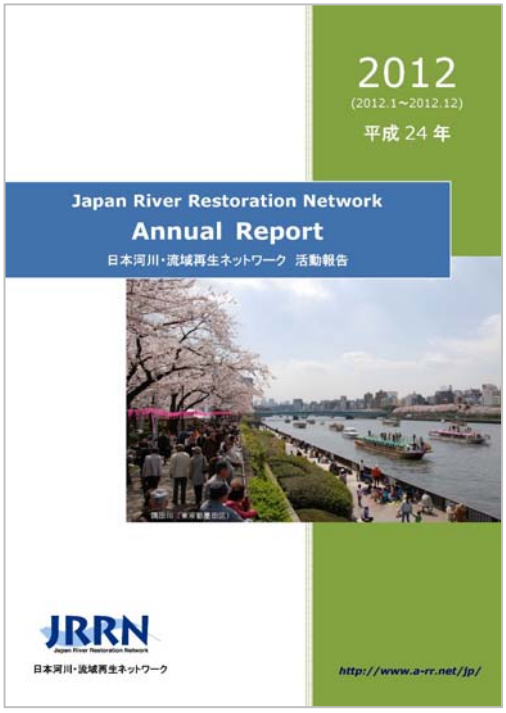
『JRRN 活動報告 2012(JRRN Annual Report 2012)』発行のご案内

JRRN 及び ARRN の 2012 年（1 月～12 月）の活動を取りまとめた「JRRN 活動報告 2012」（日本語版）が完成しました。（2013 年 3 月 22 日公開）

【目次】

- JRRN からのご挨拶
- JRRN 活動報告 2012
  - 活動一覧（2012 年 1 月～2012 年 12 月）
  - 情報共有基盤整備（ウェブサイト）
  - 情報発信（ニュースメール・ニュースレター）
  - 会員交流（JRRN 主催行事等）
  - 国際交流（研修受入、技術交流支援等）
  - 調査研究
  - 出版
- ARRN 活動報告 2012
  - ARRN 概要紹介
  - 情報交換・交流（国際フォーラム等）
  - 技術整備（河川再生ガイドライン構築）
  - 組織運営（運営会議・委員会活動）
- JRRN 組織概要
- 会員構成（2012 年 12 月現在）
- 会員サービス

JRRN 及び ARRN の設立 6 年目の活動概要をご覧頂ければ幸いです。



※「JRRN 活動報告 2012」ダウンロードはこちら
http://jp.a-rr.net/jp/news/info/276.html

（JRRN 事務局・和田彰）

会員寄稿記事(1)

マレーシアにおける河川再生の取り組み“WATER Project”の現地調査報告

寄稿者：田井さゆみ（東京学芸大学教育学部　環境総合科学課程環境教育専攻　吉冨研究室所属・JRRN 会員）

１．　WATER Project

2012 年 12 月 13 日から 15 日にかけて、マレーシアで卒業研究「マレーシアのクラン川支川・ウェイ川の環境教育と環境保全活動に関する考察―WATER Project を事例に―」の現場視察と関係者への聞き取り調査を行いました。WATER Project（Working Actively Through Education and Rehabilitation）とは、マレーシアのウェイ川で 2007 年から 3 年間行われ、住民参加や環境改善等の多くの成果を収めた河川再生の取り組みです。マレーシアの民間企業 GAB（ギネス・アンカー・ビール会社）が資金を供与し、マレーシアに拠点を置く国際 NGO である GEC（地球環境センター）が事業を推進しました。やがては住民参加型モデルとしてマレーシア全土へ普及していくことをねらいとして、様々な取り組みが行われ、住民参加の拡大、水質改善、ゴミの削減、河川の自然環境改善等の成果をあげました。日本でも学校教育や地域活動において、河川での環境教育や保全活動は行われていますが、年単位で体系化された活動が維持、拡充されていくような例は少なく、このような活動の進め方に関する情報の共有をすることが課題と考えられています。私は、今回の現地調査を通して、WATER Project の成功要因や課題を学ぶことができました。

２．　現地調査

（１）ウェイ川

マレーシアの首都クアラルンプールに隣接するセランゴール州を流れる延長 2.5km の都市河川です。水路の 95%がコンクリート三面張りで、生物多様性に乏しく、多くの住民はウェイ川を河川ではなく排水溝だと思っていたそうです。

（２）GAB（ギネス・アンカー・ビール会社）

GAB 本社（隣にはウェイ川が流れている）

イスラム教を国教とするマレーシアにおいて、アルコールでビジネスをすることに対する障害があったため、GAB 財団を設立し、財団を通して GAB の社会貢献活動を進めています。

（３）GEC（地球環境センター）

GEC での聞き取り調査の様子（写真左は GEC 職員で WATER Project 代表者であるカリタサン氏）

WATER Project は GEC が取り組む主要な 4 事業の一つ、River Care Programme（河川保全活動）で培った様々な成果を活用し、事業を推進しました。
GEC は過去にもマレーシアの多くの河川を対象にして、住民参加型のプロジェクトを実施してきました。いずれのプロジェクトも、“Civic Science Approach”の手法をもとに展開されました。

（４）学校　Dato Harun Secondary School

マレーシアには、GREEN School という認定制度があり環境保全に対する高い意識が評価され、条件を満

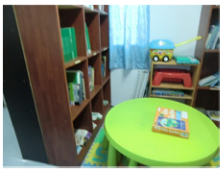
たしている学校が認定されます。GREEN School に認定されると、政府から 5000 リンギット（日本円約 17 万円）の環境教育実施資金が助成されます。

WATER Project では学校を通してリサイクルの事業化を行いました。家庭から使用済み料理用油を回収し、学校側が買い取るという仕組みをつくり連携を図ることとしました。

この取り組みは河川の「水質改善」、住民の「気づき」や「意識向上」につながりました。

リサイクル作品が展示されている教室

（5）公共施設　River Care Education Center



Mini library

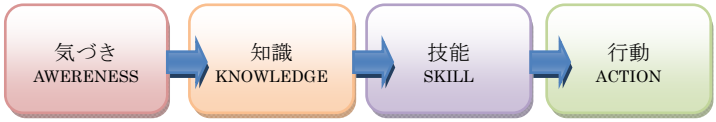
Mini laboratory

Office

River Care Education Centre は河川管理プログラムを地域住民と共有する場、活動を維持していくための場として設置されました。WATER Project の活動予算のもと設立された初代のセンターが政府から高い評価を受け、その後政府の独自の予算のもと類似施設が各州に設置されました。センター内には Office、Mini library、Mini laboratory が整備されています。

３．　WATER Project の特徴

Civic Science Approach



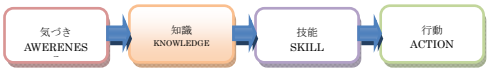
WATER Project では、環境保全活動に住民参加を促すことがねらいとされ、GEC が開発し過去に多くの現場で繰り返し検証されてきた「Civic Science Approach」と呼ばれる４過程「AWARENESS（気づき）」、「KNOWLEDGE（知識）」、「SKILL（技能）」、「ACTION（行動）」がベースとなりました。

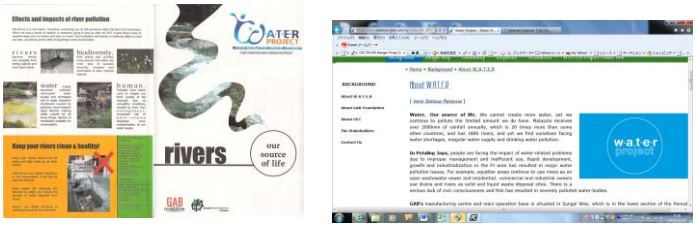
＜各過程における具体的な教材・活動＞

気づき（AWERENESS）

・視覚的な影響を与えるイラストや動画を多用した教材
・参加者が楽しめるイベントやゲームの実施
・参加賞がもらえる河川のモニタリング発表の実施

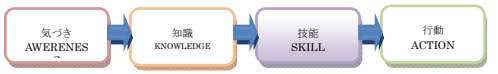
知識（AWARENESS）

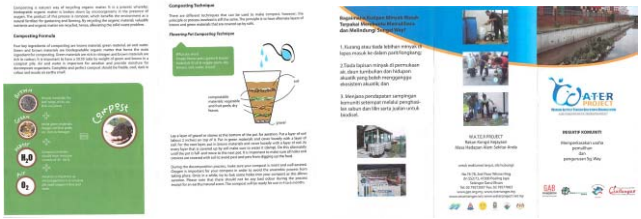




・身近な河川に関する情報を提供する教材
・マレーシア語に翻訳された教材
・地域住民を対象としたセミナーや住民参加型会議の実施

技能（SKILL）



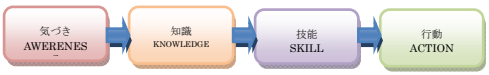


・リサイクルや実験の手順が書かれた教材
・企業や地域を対象としたリサイクルやモニタリングのトレーニングや講習の実施

行動（ACTION）

・ワークシート形式で、書き込むことのできる教材
・現場でも利用できる防水素材の適用
・活動の拠点として機能した River Care Education Center（公共施設）の建設（プロジェクトの終了後は活動の継続、情報の共有、学習の場として提供された。）

全ての過程に活用：出前授業（Mobile River Care Unit）



・地域、学校に教材を運び、授業を行うことで、遠隔地の人々も参加しやすい環境が提供されました。

環境に対する関心が薄い住民に環境保全活動の参加を促すために最も重視されたのは、４過程の中でも特に、「気づき」と「知識」でした。そのため、教材やイベントの充実度はこの２過程において高いことが明らかとなりました。

４．　まとめ

＜WATER Project の成功要因＞
・段階的な教材の利用、プログラムの実施
・「気づき」、「知識」の育成の重視
・過去に成果をあげた活動を応用し現場に即した情報を追加

⇩

住民の参加を促し、活動の効率を上げた。

＜今後の課題＞
・河川環境教育、環境保全活動の「継続、拡大、発展」

⇩

・地域住民の意識、特に自分たちの河川であるという「所有観」を高めていく
・日本を含むアジア・モンスーン地域においては、多くの共通の問題を抱えている状況下で情報を共有していく

感想

WATER Project の調査を通して、環境保全活動を推進する上で、人々に行動のきっかけを与え、現場の活動へと繋げていくための環境教育の編成の考え方や方法を理解することができました。いくら資料や教材、プログラムが充実していても、その地域住民に適した教育を行わなければ活動の継続には決して繋がらず、一時的なものとなってしまいます。しかし、地域に根差した教育を行い、地域住民の声を柔軟に聞き入れ対応していくことで、地域住民と協働していくことができ、環境保全活動の継続、拡大につながっていきます。このような手法は、環境保全活動、環境教育に限らず、様々な教育においても基軸となるものと感じました。私は卒業後、学校教育の現場に就く予定です。指導者としてこの手法を活かしていこうと考えています。

今回の研究対象地であるマレーシアには、私は過去に住んでいた経験があるので特別な思い入れがありました。再びマレーシアを訪問できたことも非常に嬉しく思っています。

また、本研究を遂行するにあたり、日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）事務局には、現地調査に同伴して頂いただけでなく、研究テーマの提案から事前・事後におけるご指導を賜り、多くの資料、情報を提供して頂きました。ここに記して感謝申し上げます。

カリタサン氏ご一家とベジタリアンレストランにて

川系男子の『川と人』めぐり No. 12～花室川～

坂本貴啓（筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程　白川直樹研究室『川と人』ゼミ）

『川と人』めぐり

研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。川が好きでしょうがない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介していきます。

1．新年度のご挨拶

昨年度，筑波大学大学院生命環境科学研究科の博士前期課程を修了し，今年度より，同大学院のシステム情報工学研究科博士後期課程に進学することになりました．大学 3 度目の入学式．私にとっては大きなチャレンジです．引き続きどうぞよろしくお願い致します．

2．春の暴風とともに

2013 年 3 月 18 日．春の少し強い風が吹く中，ガサガサ隊は決行された．ガサガサとは，用水路や川などに入り，サデ網やタモ網という網で魚をガサガサととるしぐさのことである．これが非常に楽しい．

前々から友人の I と S 先輩と卒業記念にガサガサに行こうと約束していた．大学の実験室から胴長や網，バケツなどを積み込み，現地に向かった．友人 I は 4 月から大阪勤務，S 先輩は鹿児島の離島の観光開発と散り散り．僕が学部生の頃からの付き合いだけに少しさみしい．川での想い出は色々ある．川の思い出をつくってお別れが川系男子の友情にはふさわしいと思う．

最初に向かったのは霞ヶ浦の北側の湖岸付近の用水路．周囲にはレンコン畑が広がっている．さっそく胴長を履き，臨戦態勢．T シャツは卒業記念品としていただいた『川の学校』河童 T シャツ．川系男子スタイルで臨んだ（図１）．冬場の用水路は流れがないためか，レンコン畑の近くの水路だからか分からないが，泥のたまり具合がすごく，足がずぶずぶと沈んでいく．うまく這い上がりながら，網を振るう．周囲を足でガサガサしては網の中に追い込む．泥とともに重たくなった網を陸上にあげると，黒い泥の中からきらりと銀色に輝くものが．泥を手でかき分けていくと魚が大漁．図鑑で同定したわけではないが，目視でモツゴ，ヤリタナゴ，スジエビなどが取れた．特にタナゴはここでよく採れた．

こうやって泥水の中で魚を採っていると高校時代を思い出す．よくタナゴを採りに遠賀川流域の水路や池に出かけていたあの頃が懐かしい．

タナゴが多くお目にかかれたので，少し場所移動．湖岸に沿って移動していくと湖岸に湖側からの荒波が吹き荒れる．春の嵐と言ったところだろか．2km ほど移動した水路で再びチャレンジ．同じような水路なのだが，今度は少し魚種も違う．ギンブナが多く，ヌマチチチブも採れた．同じような場所でも微妙な環境の差で優先魚種も変わってくるから面白い．

図１　霞ヶ浦周辺水路のガサガサの様子

3．貧弱な川にも五分の魂（花室川）

霞ヶ浦周辺でのガサガサを切り上げ，最後のポイントとして花室川へ向かう．

花室川は筑波大学付近の田園に源を発し，農業排水を集めて流れる河川である．流路延長約 10.6km，流域面積 38.8km^2 の小さな河川であり，住宅や田園の中を流れて霞ヶ浦に注ぐ（図２）．

今回，ガサガサのポイントに選んだのは花室川の河口から 5km 付近．住宅地の橋の付近から堤防下へ降りる．水位はひざ下で水路よりも動きやすい．さっそく網を入れると，ヌマエビ，モツゴ，ハス，ワタカ，ゼゼラ，クサガメなど水路より大型の生き物が多く網に入る（特定外来生物のブルーギルも採れたが，特定外来生物法により，採集場所からの移動はできないことになっているのでその場で殺処分した）．色んな種類の生物が採集できる川だが，この川見た目にはちょっと驚く．堤防は護岸ブロック，おまけに河床もブロックが敷き詰められている三面張りの無機質な川（図３）．おまけに，この川は独自水源がほとんどなく，農業用排水路の水を集めて流れていて水質的にも良いとは言えない．河川環境でいったら少し貧相な部類に入る川だろう．しかし見た目がこんな貧相で川で，弱々しい川でも多くの生き物を育んでいる．やはり川の力はすごい．小さなどぶ川もちゃんと生きていて，それぞれの川のかたちがあり，一つ一つに悠久な川の物語がある．そう思うとこのどぶ川が急に愛おしくすら感じられる．

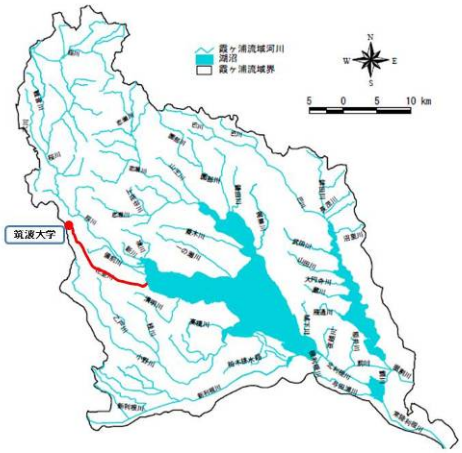


図２　霞ヶ浦流域図
（国総研研究資料より引用・加筆）

図３　護岸ブロック三面張りの花室川

4．花室川の源流はどこだ？

先ほども述べたように花室川にははっきりした源流がない．地図で上流へ，上流へと辿ると，途中から突然川が消える．普通，川と言えば，山の奥地や台地の切れ目などが湧きだした湧水が少しずつ川の流れをつくっていくため標高差がある．しかし，花室川の水源と言われるあたりの土地利用は水田で，ほとんど土地の起伏が無い．大学の少し北西のあたりが源流と言われているが，ある時まであった川が突然見えなくなる．どこかで湧水が湧いている可能性はあるが，ほとんどは農業用の排水路の水を集めて流量を増している．地図上ではこれ以上確認できないので実際に見に行く必要がありそうだ．川を視るのはこういうところが楽しい．地図上ではわからないことをあれやこれやと推測して，実際に現地に行ってどうなっているか確かめる．私の仮説だが，花室川の源流と呼ばれる筑波大学の北部キャンパスのあたりは天王台と呼ばれている．1970年代に学術研究都市を設置する際に都市開発でつけた名前ではあるが，『台』がつくということは，ここはもともと台地だったのではないだろうか？すなわち今は分断されてしまっているが，天王台の台地から染み出る湧水が水源となり，花室川を形成している．今も台地の湧水が道路の下を伏流して，湧き出してきているのではないだろうか．

5．意外と知らない身近な川

先日，同じ研究科の友人に「花室川ってあれってどこから流れてくるの？ジョギングしていたら気になって…」とタイムリーな質問された．僕も同じようにこの間まではこの川を川と認識することはなく，ただの水路のように思っていた．しかし，これも「花室川」という名のある立派な川．川には自転車が放置されているような川．私達は川といえば 美しい水際線，水辺へのアクセスしやすい親水性，風景としての美しさなど固定の川のイメージを持っている．（個人差はあるが）逆に言えば日本の川は美しい川も多いのかもしれない．しかし，こうしたイメージと少し離れた川でも実際川の中に入ってみると，様々な魅力がある．むしろ近くを流れていた普通の河川にこんなに魅力が詰まっていたことに驚きすら感じる．遠くの川にはわざわざ出かけるのに，近くの川は通り過ぎるばかりで川の中のことをほとんど知らない．まさに灯台下暗し．何気ない川だからこそ，自身で川の魅力を発見した時の感動は大きい．皆さんも暮らしと身近な川出かけませんか？

図４　花室川地図（国土地理院地形図に加筆）

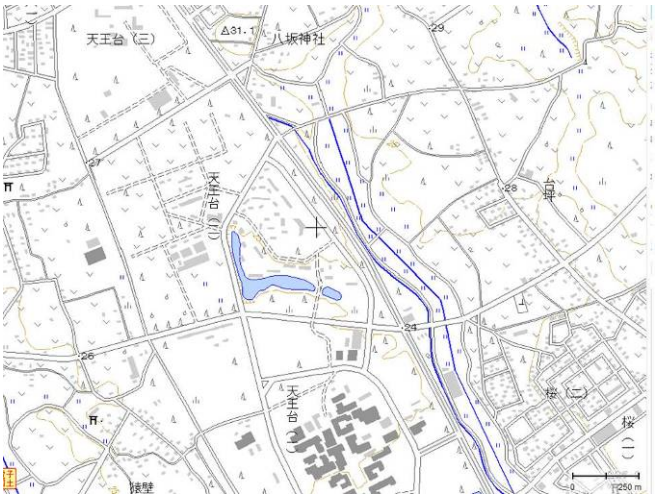


図５　花室川拡大図（国土地理院地形図）

採集した生き物

クサガメ

ブルーギル（特定外来生物）

ハス？

モツゴ（WEB さかな図鑑）

ギンブナ

スジエビ（WEB 魚図鑑）

【筆者について】

坂本　貴啓（さかもと　たかあき）

1987 年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川へ寄り道をするようになり、川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代にはYNHC（青少年博物学会）、大学時代ではJOC（Joint of College）を設立して川活動に参加する。自称『川系男子』。いつか川系男子や川ガールが流行語になることを夢みている。筑波大学大学院　システム情報工学研究科　博士後期課程　構造エネルギー工学専攻在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『河川市民団体における活動量の定量的分析』と題し、河川市民団体の活動がどの程度河川環境改善の潜在力を持っているかについて研究中。最近のお気に入りは川の源流を探ること.

水辺からのメッセージ No.47

岡村幸二（JRRN 会員）

水面に広がる春景色：
日本三名塔のひとつ・瑠璃光寺にも桜が咲き、池の鯉とも対話はずむ

撮影：2010 年 4 月（山口県・山口市香山町　瑠璃光寺）

◆西の京に建つ瑠璃光寺

山口県庁に近い香山公園内に、1442 年に建った瑠璃光寺と呼ばれる日本三名塔の五重塔が見られます。桜や梅の名所旧跡の一つともなっており、「西の京・山口」を代表する観光名所となっています。

◆時間を忘れる自然との対話

高さ 31.2m で屋根は檜皮葺きの落ち着いた素材・色合で深山の雰囲気が伝わります。室町中期の最も優れた建造物と評されており、日没から数時間はライトアップされます。日本三名塔の他の２つは、奈良の法隆寺と京都の醍醐寺の五重塔です。

JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

会議・イベント案内　（2013 年 4 月以降）

（JRRN/ARRN 主催・共催の会議・イベント）

現在企画中

（河川・流域再生に関する主なイベント）

■琵琶湖外来魚駆除大会 in 琵琶湖
○日時：2013 年 4 月 21 日（日）　10:00～15:00
○主催：琵琶湖を戻す会
○場所：草津市津田江 1 北湖岸緑地（集合場所）
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1649.html

■第 178 回 河川文化を語る会『東日本大震災の教訓 -防災への備えと復興への提案-』
○日時：2013 年 4 月 22 日（月）　18:00～20:00
○講師：村井俊治 氏（東京大学名誉教授／社団法人日本測量協会 会長）
○主催：公益社団法人 日本河川協会
○場所：厚生会館（全国土木建築健保）
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1620.html

■第 179 回 河川文化を語る会『エコトイレの神様奮闘記-自然循環式 eco トイレと途上国の水環境-』
○日時：2013 年 5 月 25 日（土）14:00～16:00
○講師：佐伯昭夫氏　（特定非営利活動法人 シャンティ山口　事務局長理事）
○主催：公益社団法人 日本河川協会
○場所：山口県旧県議会議事堂１Ｆ「夢交流ホール」
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1640.html

■隅田川ルネサンス「『東京ホタル』ひかりのシンフォニー」
○日時：2013 年 5 月 25 日（土）　18:30～21:00
○主催：東京ホタル実行委員会
○場所：隅田川テラス（桜橋～吾妻橋間）　他
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1642.html

■2013 年度河川技術に関するシンポジウム
○日時：2013 年 6 月 6 日（木）～7 日（金）
○主催：土木学会水工学委員会河川部会
○場所：東京大学農学部 弥生講堂
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1602.html

■第 6 回　いい川・いい川づくりワークショップ
○日時：2013 年 11 月 2 日(土)～11 月 3 日(日)
○主催：いい川・いい川づくり実行委員会
○場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1635.html

皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！
全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報の PR や共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。（JRRN 事務局）

書籍等の紹介

■ PRAGMO 日本語版 河川及び氾濫原再生の順応的管理に向けたモニタリングの手引き（2012.11 発刊）

・発行：ARRN, JRRN
・監修：白川直樹　筑波大学システム情報系　准教授
・翻訳：JRRN 会員ボランティア（10 名）
・編集：筑波大学白川（直）研究室『川と人』ゼミ等

※本冊子の入手方法
本手引きをご希望の方は、JRRN 事務局までご連絡ください。JRRN 会員限定サービスとさせて頂き、送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。非会員の方は、JRRN 会員登録（無料）後にお申込下さい。
info@a-rr.net　/ 電話：03-6228-3862

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2（2012.2 発刊）

・発行：ARRN, JRRN
・監修：ARRN 技術委員会
・編集：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

※本冊子の入手方法
左記の PRAGMO 日本語版と同様の方法でお申し込み下さい。
info@a-rr.net　/ 電話：03-6228-3862

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。

市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

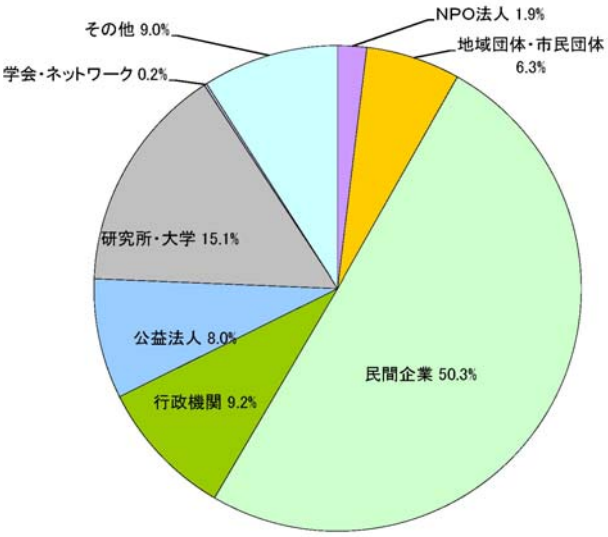
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

(1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
(2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
(3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
(4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
(5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧下さい。

http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html



2013 年 3 月 29 日時点の個人会員構成
（個人会員数：602 名、団体会員数：51 団体）

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員（一般）
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール（週1回）の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter（毎月）及び年次報告書（年1回）等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュール（ARRN Newsletter等）の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照： http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)　事務局
公益財団法人リバーフロント研究所　内
〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号　新川中央ビル 7 階
Tel:03-6228-3862　Fax:03-3523-0640　E-mail: info@a-rr.net　URL: http://www.a-rr.net/jp/

JRRN は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

公益財団法人 リバーフロント研究所　CTI 建設技術研究所 国土文化研究所